

滋賀



大津支局

〒520-0806 大津市打出浜13-1
☎077-522-6691 FAX 522-6693

彦根支局

〒522-0075 彦根市佐和町10-10
アイシーアネックスビル2F

☎0749-22-0154 FAX 26-1333

草津通信部 ☎077-566-7171

長浜通信部 ☎0749-62-0899

近江八幡通信部 ☎0748-33-2818

甲賀通信部 ☎0748-62-7181

高島通信部 ☎0740-25-4238

ホームページ

http://www.yomiuri.co.jp/local/shiga/

広告のご用は ☎077-522-4751

読売旅行は

大津 ☎077-521-3636

彦根 ☎0749-22-5500

折込広告は ☎077-545-8173

ふるさとホール(教道寺会館)

家族葬(10万円より)

小さなお葬式

総合受付
アメニティライフ ハマヤ
☎0120-24-1717

エリア:長浜・米原・彦根・犬上・東近江・近江八幡



小学生に発電の仕組みを教える高校生(彦根市で)

彦根工生が出前授業

彦根市の県立彦根工業高電気科の3年生7人が11日、市立平田小で出前授業を行い、6年生に発電の仕組みなどを教えた。

県教委の「専門高校プロジェクト」の一環。児童らに「発電」の仕組みを教えることで、高校生自身の発想力や表現力を高め、地域貢献にもつながる狙い。

この日のテーマは「発電」。プリントを使いながら水力・火力発電の仕組みを紹介し、手回し発電機を使い、

豆球に電気をともした。人間の体の中には電解質があり、乾電池と同じような仕組みを持っていることを説明するため、鉄のスパーンとアルミホイルの電極を両手で握ると電圧計が振れる実験も行い、興味を誘っていた。

西田拓都君(17)は「教えるのは緊張してうまくできないところもあったが、自分の勉強にもなった。みんなが喜んでくれてよかった」と話していた。

発電の仕組み 児童に教える

トンネル銘板 お疲れさま

第二草津川



約50年前に揮毫した銘板の文字を間近に思い出す岸本さん(草津市で)

国土交通省滋賀国道事務所によると、トンネルは交通量増加に対応するため、戦前に開通した「草津川トンネル」に次いで、66年に東側に隣接して建設が始まり、71年に完成した。銘板の文字は65年、市教委を通じて、当時、市立草津中3年だった岸本さんが依頼を受け、1文字を縦約40センチ、横約30センチの大きさで

筆で書き上げた。銘板は横3.5メートル、縦0.7メートル、重さは4トンほどで、高さ約6メートルの位置に設置しようとした揮毫は知事や国会議員らが手がけるのが通例だったが、健やかに伸びゆく子どもたちの文字に地域の発展を託したという。その願い通り、市の人口は当時の3倍以上となる13万人を超え、県下第2の都市となった。

この日、周りのコンクリートを切り取る作業が行われ、銘板はクレーンにつるされて慎重に地面に下ろされた。同事務所の職員や作業員らが見守る中、岸本さんは銘板に近づき、半世紀前に自分が書いた文字と間近で、再会。「書道塾の先生に、のびのびと書いてみなさいと勧められました。何枚も書いた記憶があります」と振り返った。

そして、「トンネルを通るたびに銘板は自分の分身のように思え、励みになっていました」と語り、「長く掲げていただき、本当に幸せでした」と感慨深い表情を見せた。

今後、銘板の取扱いには同事務所と市が検討。トンネルの撤去後は、国道1号の下り2車線分として整備される。

50年前に揮毫 岸本さん撤去見守る

天井川だった旧草津川の下を通る草津市の国道1号「第二草津川トンネル」の撤去工事に伴い、1966年から入り口に取り付けられていた銘板が11日、取り外された。中学校時代に文字を揮毫した同市矢橋町の主婦・岸本(旧姓・松田)明さん(66)も作業を見守り、半世紀にわたって掲げられた銘板と街の発展に思いを重ねた。(名和川徹)



滋賀大空手道部の寒稽古が11日、彦根市の松原水泳場で行われ、寒中らしい冷え込みの中、女子8人を含む21人が腰まで水につかって身を鍛錬した一写真＝。

50年以上続いている伝統行事。寒稽古が始まったこの日午後1時の市内の気温は5.6度、風速6.8メートルで、部員たちは「エイ、エイ」と気合を入れて琵琶湖に入り、突きを繰り返していた。

エイ鍛錬日和

稽古後、「冷たくて痛いくらい」と言いながら湖畔に上がって、たき火に当たったが、主将の3年・反橋亮太さん(22)は「今年は風も強くて寒い。いい鍛錬になった」と満足そうだった。

新成人7人は寒稽古恒例の「20歳の誓い」も行い、2年・谷村美紀さん(20)は「女子団体戦で戦力の要になる」と宣言し、湖面に飛び込んでいた。

長浜の酒試飲と謎解き楽しんで

14・15日 学生が企画

長浜バイオ大(長浜市)の学生が主催する「地の酒の試飲と謎解きラリー」が14、15日の午前11時午後4時、市中心的商店街で開かれる。

イベントは、就業支援科目「長浜魅力づくりプロジェクト」の受講生が地域活性化を目的に企画、運営している。

日本酒やビール、ワインを手がける8業者が大手門通り商店街に出展。30以上の銘柄が100～500円

で試飲できる。学生サークルが地元野菜で作ったかす汁や炊き込みご飯、飲食4店の料理も販売される。

謎解きラリー(参加費1組500円)は初級と中級があり、6問を1時間以内で解いてスタンプを集める。景品がもらえる。市東山博物館前広場には引き酒コーナーなどが設けられる。当日は1000円券(100円券10枚)と500円券(同5枚)を同博物館前広場などで販売する。

プロジェクトリーダーの高山瑠璃子さん(20)は「週末は長浜でお酒と謎解きを楽しんで」と呼びかけている。問い合わせは同大学の



プロの料理を味わう生徒(湖南市で)